

### 江戸の文人、力士の活躍が偲ばれる 門前仲町から深川、両国を散策

校友会主催の第五回「歴史散歩」が11月16日（土）に秋晴れの好天気恵まれ開催された。門前仲町駅近くの①富岡八幡宮前に校友、学生が集合。A・Bの2班に分かれて出発。

富岡八幡宮は応神天皇、天照大神などが祀られている。寛永4年、神社の周囲に20万㎡を埋め立てて町屋として貸し、地代を神社の経費に充てた。後に深川富岡町・深川門前町となり大いに繁盛したという。また鳥居をくぐり、すぐ左に日本で最初に正確な地図を作製した伊能忠敬の像がある。八幡宮は江戸勸進相撲の発祥の地としても知られ、現代の相撲につながっていった。大鳥居をくぐって参道右手に大関力士碑、左手には大神輿が奉納されている。社殿の右奥には大関力士碑より大きな横綱の碑がある。八幡宮から西参道を進むと仲見世通りの右に永代寺を見ながら奥に進み、②深川不動堂の山門をくぐると、大きなわらじが迎えてくれる。旧本堂と梵字で飾られた新本堂が目に入る。

深川不動左の深川公園をぬけ、清澄通りに入ると③法乗院深川ゑんま堂。その先のは海辺橋たもとには松尾芭蕉が奥の細道の旅に出た④採茶庵が再現されている。橋を渡るとすぐに⑤滝沢馬琴誕生の碑がある。芭蕉の⑥「古池の句」碑がある清澄庭園を

左に見て、江戸資料館通りに入り、⑦靈巖寺、⑧深川資料館へ向かう。このあたりは佃煮屋、アサリ飯屋などと、今風のおしゃれな小物屋があり新旧の店が楽しめる。靈巖寺は浄土宗の寺院で「松平定信墓や江戸六地藏の一つ「銅造地藏菩薩坐像」がある。すぐ隣に位置する深川江戸資料館は江戸末期の様子を原寸大で再現している。当時の庶民の生活、部屋の広さをなどを体感しながら楽しくタイムスリップできる興味深い場所だ。資料館の近くには⑨紀伊国屋文左衛門の墓・碑がある。墓は碑より小さく目立たないので注意が必要である。

清澄公園から万年橋へ抜ける小道に葎草学に詳しく、徳川家康の侍医として抱えられた⑩呂一官の碑がある。江戸時代の⑫万年橋は北斎の『富嶽三十六景』の中で「深川万年橋」として取り上げ、描いている。橋の橋脚は高く虹型にかけられていた。万年橋を渡ると芭蕉ゆかりの地、⑬芭蕉庵史跡展望庭園、⑭芭蕉稲荷、⑮芭蕉記念館などが点在している。川沿いの遊歩道等そこかしこに芭蕉の句のプレートがあり楽しめる。

⑰一之橋の手前に⑯江島杉山神社がある。鍼医杉山和一は徳川綱吉の病を治療し



① 集合場所の富岡八幡宮の前で参加者の点呼とA、B班を分けて出発

一之橋を通り過ぎ両国界限に入ると⑱回向院がある。明暦の大火で10万人を超えた焼死者を埋葬し回向した。宗派や動物なども差別なく吊っている。回向院隣には⑲旧両国国技館がり、昭和33年に日本大学が大講堂として購入し日大を象徴する建物となった。しかし老築化のため解体され現在は複合施設ビルになっている。回向院近くには⑳吉良邸跡、㉑勝海舟誕生の碑がある。江戸の文人や力士の活躍が偲ばれる4時間ほどの、深川から両国までの散歩だった。散歩後は、案内の先生達との歴史談義、校友と在学生との交流で盛り上がった。



A班を引率した各所の歴史などの説明をした江戸文化歴史検定1級の秋山修先生



B班を引率し、解説した江戸文化歴史検定1級の関一成先生

※○丸の中に数字があるの今回訪れた所●のみのものは説明のみで訪れなかった場所



富岡八幡宮

① 富岡八幡宮の大鳥居をくぐるとすぐ左にある伊能忠敬の銅像。平成13年に、忠敬が測量を始めて200年を記念して建立された。忠敬は門前仲町に住み、56歳の時、全国測量の旅に出た。測量の出発には必ずこの神社に参拝したと言われている  
 ← A 班の参加者と秋山先生、  
 ↓ B 班の参加者と関先生。出発前に富岡八幡宮の大鳥居の前で



中央にある黒色の大関力士碑の裏面には建立に寄進をした、藤沼校友会副会長の名が刻まれている

大関力士碑の右側にある碑には大関力士の手形が刻まれている



富岡八幡宮



富岡八幡宮本殿右の方に回ると横綱碑や八幡橋などの多くの施設にたどり着く

忠敬の像の隣の建物には、日本最大と言われ随所に純金や宝石を散りばめた絢爛豪華な御輿が置かれている。担いだ経験がある藤沼副会長は担ぎ棒を250名で担いだが無理だったという。3000人で交代して進んだと語った



富岡八幡宮の西参道を抜けて、深川不動堂に向かう



横綱碑の裏面には歴代横綱の名が彫られている



八幡堀の遊歩道にかかる人道橋。現在の中央区の楓川に架橋されていた。鉄を主材にした日本最古の橋



横綱碑。左右には関取の絵が彫られた碑が建っている



近年復興された幅 4.5m 高さ 3.5m の巨大なゑんま像



③ 法乘院は、ゑんま堂として有名。法乘院は、  
覚誓僧正が開山となり、寛永6年（1629）  
深川富吉町に創建、寛永18年当地に移転した  
といわれている。巨大なハイテクのゑんま像  
は光や音とともに仏の教えを語る。

# ゑんま堂



階段を上り左側の本堂内にゑんま像が鎮座されている



# 深川不動堂

② 大きなわらじを背に秋山先生が深川不動堂の説明を。正面の旧本堂の左側には全面に梵字が刻まれた新館の本堂が圧倒する



資料に目を通しながら次の訪問地を期待をする学生 本殿右を進むと五代目尾上菊五郎の碑があるなど深川不動堂内の各所を説明をする関先



海辺橋を越え、すぐにある③滝沢馬琴生誕の碑



④海辺橋のたもとにある採茶庵跡。『奥の細道』への旅立ちもこの付近と言われている



清澄通りを北上し⑤海辺橋方面を進み深川江戸資料館をめざす



江戸六地蔵の一つ「銅造地藏菩薩座像」



霊巖寺

⑦霊巖寺山門(写真上)と境内にある国指定史跡の松平定信の墓



清澄通りを進み、新旧の個性的な店が並ぶ深川江戸資料館通りへ入り、少し進むと 霊巖寺にたどり着く



深川江戸資料館

霊巖寺のすぐ隣に位置する⑧深川江戸資料館は、色々な資料や展示物で江戸時代を知ることできるが、ここでの一番の楽しみは原寸大で江戸の生活を体感できる事だろう



深川江戸資料館





清澄庭園の一角に、芭蕉が詠んだ『古池の句』を記念して建てられた⑩句碑(写真左)が芭蕉庵改修の際、この地に移されている



⑩呂一官は薬草・香木などに詳しく、後の化粧品メーカーの基礎を築いた



清澄庭園の前では園内にある芭蕉の『古池や句碑』やこれから訪れる近くの史跡などについて説明された



⑨紀伊国屋文左衛門の碑、向かって左側に小さい墓がある



⑫万年橋は安藤広重や葛飾北斎などのモチーフになっている橋である。広重は『名所江戸百景』の『深川万年橋』として、また北斎は『富岳三十六景』の『深川万年橋下』として取り上げている。大きく弧を描き虹型に架けられた優美な橋であり、富士山がきれいに見える名所でもあった



「三井の大番頭」と称された、三野村利左衛門が設立した会社の社屋として建てられた。金色に輝くテラコッタの装飾が目目をひく



深川の名物深川飯、深川丼とも言われるアサリの炊き込みご飯







15 一橋通りにある江東区芭蕉記念館。手前には芭蕉の木（写真左）が植えられている

14 芭蕉稲荷には蛙の像があり、右は現代のもので、左が昔のものだと言われている

隅田川沿いには芭蕉が読んだ句のパネルが並んでいる。それを読みながらの散歩



13 芭蕉史跡展望庭園には芭蕉の名の由来となった芭蕉の木も植えられている。銅像前にて



19 旧両国国技館・日大講堂跡。1958年に多くの学部を有する日本大学が、入学式や卒業式を全学統一にするために購入。日大を象徴する建物となった。1983年老朽化のため解体された。現在は土俵の跡が金属板で丸く残っているだけであ



17 隅田川から入って一番目という事から名がついた一之橋



点字の碑はこの地以外にはないと言われている「贈正五位杉山検校頌徳碑」

16 五代將軍徳川綱吉が、目の不自由な杉山一を日夜治療に当たさせた後、この地に「本所一ツ目弁天社」を建立。後に現在の「江島杉山神社」となった



20 吉良邸跡。回向院の東にあり、赤穂浪士が討入りした上屋敷跡の一部。有志により本所松坂町公園として残された。園内には吉良首洗い井戸がある



手前は願いが叶うと、塩が供えられたところから名がついた塩地藏。後方の白い塔には馬頭観世菩薩が祀られている



18 回向院山門。回向院は360年前の明暦3年(1657年)に開かれた浄土宗の寺院。大火の死者を回向するだけでなく、動物や様々な生き物を区別することなく生あるもの全て慈悲をと現在に至っている

回向院



21 両国公園の中に勝海舟生誕の地の跡



猫を供養するための碑もある



鼠小僧の墓、手前の白い石を削って金運のお守りに人気



相撲協会が慰霊のためと新弟子が力を授かるようにと建立した